

令和7年度全国学力・学習状況調査結果の分析と改善に向けて

1 調査の概要

(1) 実施期日

令和7年4月14日（月）～17日（木）実施

(2) 調査対象学年

小学校第6学年（日田市：437人） 中学校第3学年（日田市：541人）

(3) 調査内容

◇教科 小学校第6学年 国語、算数、理科

中学校第3学年 国語、数学、理科

◇質問調査（児童・生徒）

(4) 調査内容の説明

◇「知識」に関する内容と「活用」に関する内容を一体的に問う調査問題

◇質問調査（児童・生徒）

・児童生徒を対象に学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(5) 用語の説明

◇正答率：全設問に対して児童生徒が正答した割合（集団の場合は平均値）。

◇全国比：全国の平均正答率を100とみたときの日田市の割合。

◇IRTスコア：各設問の難易度などから統計理論に基づいて算出したスコア。

2 結果の概要

【小学校6年生】

《平均正答率（％）》※色付き部分は全国値以上

	小学校6年生		
	国語	算数	理科
日田市	67	59	57
大分県	69	60	60
全国	67	58	57
全国比	100	102	100

【中学校3年生】

《平均正答率（％）》※色付き部分は全国値以上

	中学校3年生		
	国語	数学	理科
日田市	52	41	48.4
大分県	53	45	50.1
全国	54	48	50.3
全国比	96	85	96

※理科はIRTスコア

3 教科に関する調査結果の分析及び改善の方策

小学校6年生 国語

①結果の概要

国語	教科全体	学習指導要領の領域						評価の観点			問題形式		
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する 事項	我が国の言 語文化に関 する事項	話すこと 聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学 習に取り組 む態度	選択式	短答式	記述式
日田市	67	81.0	58.4	80.5	63.4	70.6	58.6	75.2	63.6	—	62.7	80.9	65.1
大分県	69	83.8	63.4	82.9	65.8	70.6	59.8	78.5	64.9	—	64.7	83.6	64.6
全国	66.8	76.9	63.1	81.2	66.3	69.5	57.5	74.5	63.8	—	64.7	78.5	58.8
全国比	100.3												

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

○学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読んだり、当該学年の前の学年までに配当されている漢字を書いたり、文や文章の中で使ったりするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うこと〔2四〕アイ

情報の扱い方に関する事項

●情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと〔1二〕

書くこと

○目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること〔2三〕

読むこと

●時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えること（1，2年）〔3二（1）〕

○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けること〔3三（1）、（2）〕

学びに向かう力に関連すること

○無解答率（解答しなかった児童の割合）は、全ての問題において全国よりも低い。

○記述式の正答率が、全国値に比べて5ポイント高い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

○情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実

・図示などにより、語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解することが重要である。様々な学習活動において、目的を意識しながら、自分に合った方法で情報を整理できるように指導すると効果的である。

○事実と感想、意見などとの関係を叙述を基に押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する指導の充実

・要旨を把握するためには、書き手が、どのような事実を理由や事例として挙げているのか、どのような意見をもっているのかなどに着目することが重要である。理由や事例を書き出し、書き手の考えを自分の言葉で短くまとめることができるように指導すると効果的である。

小学校 6 年生 算数

①結果の概要

算数	教科全体	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		
		数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
日田市	59	63.0	60.5	51.8	55.1	60.2	67.7	47.3	—	66.7	66.1	35.8
大分県	60	63.3	60.0	55.8	57.2	63.0	68.2	48.9	—	68.3	66.9	36.3
全国	58.0	62.3	56.2	54.8	57.5	62.6	65.5	48.3	—	67.2	64.0	34.9
全国比	101.7											

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

数と計算

- 数直線上で、1 の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えること〔3 (3)〕
 ●示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算すること〔1 (4)〕

図形

- 角の大きさについて理解すること〔2 (3)〕
 ○平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図すること〔2 (1)〕
 ○台形の意味や性質について理解すること〔2 (2)〕
 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を記述すること〔2 (4)〕

測定

- はかりの目盛りを読むこと〔4 (3)〕

変化と関係

- 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見いだすこと〔4 (1)〕
 ●「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すこと〔4 (4)〕

データの活用

- 棒グラフから、項目間の関係を読み取ること〔1 (1)〕
 ●簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶこと〔1 (3)〕
 ●目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を記述すること〔1 (2)〕

学びに向かう力に関連すること

- 無解答率（解答しなかった児童の割合）は、16 項目中 15 項目で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

○示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えることができるようにする指導の充実

- ・基準量と比較量、割合の関係を正しく捉えるために、言葉や図、式を関連付けながら数量の関係を考察できるようにすることが重要である。

○様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにする指導の充実

- ・様々なグラフの特徴を理解し、目的に応じて複数のグラフから適切なグラフを選択してデータの特徴や傾向を捉え判断し、その判断の理由を表現できるようにすることが重要である。その際、グラフのどの部分やどの数値に着目したのかを説明するなど、他者に分かりやすく表現できるようにすることが大切である。

小学校6年生 理科

①結果の概要

理科	教科全体	学習指導要領の区分・領域				評価の観点			問題形式		
		「エネルギー」	「粒子」	「生命」	「地球」	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
日田市	57	49.5	48.8	53.2	65.6	56.0	57.8	—	53.2	71.7	47.9
大分県	60	51.8	52.7	55.1	69.2	59.0	60.7	—	56.6	73.7	50.8
全国	57.1	46.7	51.4	52.0	66.7	55.3	58.7	—	54.7	69.7	45.2
全国比	99.8										

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

エネルギー

- 電流がつくる磁力について、電磁石の強さは巻数によって変わること〔2(3)〕
- 乾電池のつなぎ方について、直列つなぎに関すること〔2(4)〕

物質（粒子）

- 問題を解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現すること〔4(1)〕
- 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現すること〔4(3)カ〕

生命

- 花のつくりや受粉について〔3(1)〕
- 顕微鏡を操作し、適切な像にするための技能について〔3(2)〕

地球

- 水のしみ込み方の違いについて【結果】を基に考察し、【問題に対するまとめ】の理由を適切に表現すること〔1(2)〕
- 氷がとけてできた水が海に流れていくことの根拠について、理科で学習したことと関連付けて、知識を概念的に理解すること〔4(3)キ〕

学びに向かう力に関連すること

- 無解答率（解答しなかった児童の割合）は、すべての問題で全国よりも低い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

- より妥当な考えをつくりだすために、様々な場面で解決の方法を改善していく
 - ・ 科学的に問題を解決するためには、計画した実験方法が予想したことを確かめられるものになっているかを検討して、改善することが大切である。例えば、「解決の方法を発想する場面」、「実験を行い、その結果や方法を振り返る場面」、「問題に対するまとめを導きだす場面」などが考えられる。
- 条件を制御した実験の方法を発想し、表現する
 - ・ 条件を制御した実験の方法を発想し、表現するためには、変える条件や変えない条件に着目し、整理しながら実験を計画することが重要である。検証計画の立案で十分な活動時間を設け、条件制御の必要性を確認した上で、予想や仮説を基に、条件を制御した場合の結果の見通しについての話し合い等を行い、児童自ら条件を制御した計画を立てることが大切である。

中学校3年生 国語

①結果の概要

国語	教科全体	学習指導要領の領域						評価の観点			問題形式		
		言葉の特徴や使い方に 関する事項	情報の扱い 方に関する 事項	我が国の言 語文化に関 する事項	話すこと ・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・ 表現	主体的に 学習に取り 組む態度	選択式	短答式	記述式
日田市	52	45.6	—	—	51.5	50.2	60.8	45.6	53.3	—	62.2	69.9	23.3
大分県	53	46.5	—	—	52.1	52.7	61.1	46.5	54.6	—	62.6	74.1	24.7
全国	54.3	48.1	—	—	53.2	52.8	62.3	48.1	55.3	—	63.9	73.6	25.3
全国比	95.8												

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

言葉の特徴や使い方に関する事項

- 文脈に即して漢字を正しく使うこと〔1一〕

話すこと・聞くこと

- 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫すること〔2一〕

書くこと

- 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くこと〔1四〕
- 読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えること〔4一、二〕

読むこと

- 表現の効果について、根拠を明確にして考えること〔3一〕
- 文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えること〔3四〕

学びに向かう力に関連すること

- 無解答率（解答しなかった生徒の割合）は14項目中7項目で全国よりも高い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

○ 資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する指導の充実

- ・資料や機器を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように表現を工夫する際には、伝えたい内容が適切に伝わるよう効果的に資料や機器を活用することが重要である。その際、話の内容を踏まえ、話の要点や根拠が明らかになっているか、説明が不足していないか、中心となる事柄が強調されているかなど、自分の考えが聞き手に分かりやすく伝わっているかを確認し、資料や機器の使い方について検討することが大切である。

○ 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整える指導の充実

- ・書いた文章を推敲する際には、伝えようとするものが伝わるように、読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるように指導することが大切である。叙述の仕方などを確かめるとは、文や段落の長さ、文や段落の役割、段落の順序、語順などが適切であるかなどをみることである。その際、第1学年〔知識及び技能〕の(1)エに示された「指示する語句と接続する語句の役割について理解を深めること」、第2学年〔知識及び技能〕の(1)「力敬語の働きについて理解し、話や文章の中で使うこと。」などとの関連を図り、学習した「知識及び技能」を生かして文章を整えるよう指導することが有効である。

中学校3年生 数学

①結果の概要

数学	教科全体	学習指導要領の領域				評価の観点			問題形式		
		数と式	図形	関数	データの活用	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式
日田市	41	36.0	37.5	42.8	50.0	47.0	31.0	—	47.3	43.9	31.9
大分県	45	39.9	42.0	45.3	55.6	51.2	34.8	—	49.4	48.9	35.9
全国	48.3	43.5	46.5	48.2	58.6	54.4	39.1	—	54.0	52.0	39.6
全国比	84.9										

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

数と式

- 素数の意味の理解〔1〕
- 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること〔6(3)〕

図形

- 外角の意味の理解〔3〕
- 統合的・発展的に考え、条件を変えた場合について、証明を評価・改善すること〔9(2)〕
- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること〔9(3)〕

関数

- 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めること〔4〕

データの活用

- 相対度数の意味の理解〔5〕

学びに向かう力に関連すること

- 無解答率（解答しなかった生徒の割合）は、15項目中11項目で全国よりも高い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

○ 式の意味を読み取る活動の充実

- ・文字を用いた式の意味を読み取り、事柄の特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。例えば、連続する二つの3の倍数を $3n$ 、 $3n+3$ として和を計算した式である $6n+3$ を $2(3n+1)+1$ と変形した式が、 $2 \times (\text{整数}) + 1$ となっていることから、連続する二つの3の倍数の和が奇数になることを読み取れるように指導することが考えられる。

○ 条件を変えた場合について、元の証明を評価・改善する活動の重視

- ・証明したことを基に、条件を変えた場合の証明について考察する場面を設定し、条件を変えても変わらない関係や、条件を変えると変わる関係を見いだし、元の証明を評価・改善することにより条件を変えた場合の証明ができるように指導することが大切である。

◎ データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を説明する活動の重視

- ・大きさの異なる複数のデータの分布の傾向を考察する活動を設定し、ある階級の度数の総度数に占める割合を求めて比較する場面を取り入れることを通して、相対度数の必要性和意味について理解できるように指導することが大切である。

中学校3年生 理科

①結果の概要

理科	教科全体 ※IRTスコア	大問①					
		(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
		エネルギー	粒子	地球	生命	粒子	粒子
		知識・技能	思考・判断・表現	思考・判断・表現	知識・技能	知識・技能	思考・判断・表現
		選択式	記述式	選択式	選択式	短答式	記述式
		5	5	5	5	4	3
日田市	484	43.3	41.4	32.5	28.5	34.7	74.8
大分県	501	49.2	46.4	34.1	33.0	41.1	74.5
全国	503	51.9	46.2	36.2	29.7	44.9	79.4
全国比	96.2						

←難易度

理科に関しては、生徒が解いた問題が異なるため、全体のIRTスコアは出ても、領域や観点ごとの平均正答率は出ていない。
全受検者が解いた大問①のみ、平均正答率を記載している。

②教科領域結果 ○：できている点 ●：課題がある点

エネルギー ●回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識を身に付けること〔1(1)〕

粒子 ●塩素を元素記号で表すこと〔1(5)〕

生命 ●生命を維持する働きに関する知識を概念として身に付けること〔1(4)〕

地球 ●地層を構成する粒の大きさとすき間の大きさに着目して分析して解釈すること〔1(3)〕

科学的に探究する過程

●見いだした問題から適切な課題を設定すること〔1(2)〕

●探究から生じた新たな疑問などに着目した振り返りを表現すること〔1(6)〕

学びに向かう力に関連すること

●無解答率（解答しなかった生徒の割合）は、共通問題6項目中3項目で全国よりも高い。

③具体的な授業改善の方策・ポイント

○ 考察の妥当性を高めるために、科学的な探究の見通しをもつ学習活動の充実

指導に当たっては、科学的な探究の見通しをもつために、すぐに観察、実験を行うのではなく、個人やグループなどで「観察、実験の結果から何が分かればよいのか」について、確認して共有するなどの学習場面を設定することが考えられる。

その際、比較したり、関係付けたりする対象を明確にして関係性を示したりするなど、適切に表現できるような言語活動の充実も求められる。

○ 化学変化を質的・実体的な視点で捉えることができるようにする学習活動の充実

指導に当たっては、化学変化を原子や分子のモデルを用いて考察させるなど、微視的に事物・現象を捉えるようにすることが考えられる。

その際、1人1台端末を使用して原子や分子のモデルを動かし、生徒が試行錯誤できるようにすることが考えられる。

○ 生命を維持する呼吸の知識をいろいろな生物に活用できるようにする

指導に当たっては、「呼吸を行う」、「光合成を行う」などの生物の共通点や相違点を挙げ、生命を維持する働きに関する知識を基に、それらの特徴からいろいろな生物について考察する学習場面を設定することが考えられる。

その際、直接観察することが難しい生物については、博物館等で公開している動画等を1人1台端末で視聴することも考えられる。

○ 地層の傾きを主として時間的・空間的な視点で捉え、地層の広がりを検討して表現できるようにする

指導に当たっては、離れた地点の幾つかの地層を比較したり、地層モデルを活用したりするなど、地層の広がり方や傾きを空間的な視点で捉える場面を設定することが考えられる。

その際、ボーリング調査の結果が、地盤の安全性の評価やハザードマップの作成に活用されていることに触れ、大地の変化に関する学習と日々の安全な生活とのつながりに気付くようにすることが大切である。

4 児童・生徒質問調査結果について

- (1) **生活習慣・家庭での学習習慣等に関する回答状況** (数値は肯定的回答の割合 %)

※水色：全国値より 5 ポイント以上

※黄色斜体：全国値より 5 ポイント以下

【自尊意識・将来に対する意識・学校生活・規範意識等】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
自分には、よいところがあると思いますか	90.6	88.3	86.9	80.6	87.0	86.2
将来の夢や目標を持っていますか	85.6	82.8	83.1	66.7	67.6	67.5
学校に行くのは楽しいと思いますか	87.2	87.4	86.5	88.2	87.9	86.1

【基本的生活習慣・幸福感】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
朝食を毎日食べていますか	92.1	93.5	93.7	91.6	92.2	91.2
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	93.3	94.1	93.0	92.1	92.6	91.6

【社会に対する意識・地域との関わり】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
新聞を読んでいますか ※週に 1 回以上	6.3	6.9	10.6	2.9	4.4	5.7
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	83.0	81.6	81.3	76.3	76.1	75.3

- (2) **教科の学習に対する関心・意欲・態度に関する回答状況**

【国語に関すること】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
国語の勉強は好きですか	68.6	64.2	58.3	56.7	61.0	57.9
国語の授業の内容はよく分かりますか	84.7	86.5	82.8	68.5	77.9	77.0
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	91.9	91.9	90.4	88.0	89.8	88.3
解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全て最後まで書こうと努力した	90.4	87.1	81.7	69.7	65.9	65.3

【算数・数学に関すること】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
算数・数学の勉強は好きですか	62.3	60.8	57.9	51.2	53.7	53.8
算数・数学の授業の内容はよく分かりますか	81.3	81.3	78.3	62.6	66.7	70.3
算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	93.9	92.1	91.6	73.9	78.1	75.2
言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く（解答を言葉や数、式を使って説明する）問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全てで最後まで書こうと努力した	80.9	79.5	74.5	55.3	54.5	54.9

【理科に関すること】

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
理科の勉強は好きですか	82.5	79.1	80.1	65.3	68.8	63.8
理科の授業の内容はよく分かりますか	89.7	89.8	88.9	64.5	74.3	71.4
理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	81.4	81.0	79.9	62.3	66.9	63.4
解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか ※全てで最後まで書こうと努力した	85.9	86.9	81.8			

【授業改善・学習指導】※「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか	85.8	86.4	84.9	86.9	85.9	84.7
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	79.0	81.5	80.3	75.5	76.9	77.7
自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	64.6	63.4	68.6	54.0	54.6	63.0
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解してないところについて、わかるまで教えてくれていると思いますか。	91.2	91.3	88.4	83.0	89.0	83.8

「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだかどうか

(3) 分析

【小学校6年生】

- ・教科の愛好度が全国に比べて非常に高く、意欲があることがわかる。
- ・記述問題に対して「全てで最後まで書こうと努力した」と回答した児童の割合が全国よりも高く、最後まであきらめず取り組む粘り強さがある。

【中学校3年生】

- ・すべての教科において、「授業の内容はよくわかりますか」の質問に対して、全国値を5ポイント以上下回っている。
- ・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていますか」の質問に対して、87%と、県や全国の値と比較すると高い。また、小学校の数値よりも高い。質問内容のような授業を繰り返すことで、理解度が高まることが期待できる
- ・今年度も引き続き、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している」と回答した生徒の割合が全国値を5ポイント以上下回っている。

(4) 改善の方策

- ◇児童生徒の「わかった」「できた」が実現できるような授業改善をするという、強い志を持つ。
- ◇児童生徒のつまづきを予測し、その時に対応できるような手立てを持っておく。
- ◇児童生徒の実態、教材の特性、教師の願いをもとに、単元を通してどんな力を付けたかを明確にした授業の実現（単元構想、単元計画の充実）
- ◇学びに向かう力を育成するためにも、児童生徒とのめあての共有、目的意識をしっかりと持たせて取り組ませる。
- ◇教科に対する愛好度を高めるために、授業の「振り返り」の時間を活用し、「本時の自身の学びや成長を振り返る」時間を充実させる。
- ◇家庭学習も含め、A I ドリルや問題データベースの活用と確かな見取りによるやり直しや補充学習の徹底

5 クロス集計について

(1) クロス集計結果の概要（色付きは最も正答率が高いもの）

①児童生徒の朝食を食べる割合と平均正答率の関係

【朝食を毎日食べている】

選択肢	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	国語 正答率	算数 正答率	理科 正答率	国語 正答率	数学 正答率	理科 IRT スコア
している	68.5	60.8	58.4	54.2	42.9	495
どちらかといえば、 している	61.6	53.8	53.1	46.2	34.4	450
あまりしていない	55.5	41.5	45.8	48.4	33.0	456
全くしていない	63.4	47.7	49.3	39.5	24.2	403

②個別最適な学びと平均正答率の関係

【5年生までに（1、2年生の時に）受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか】

選択肢	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	国語 正答率	算数 正答率	理科 正答率	国語 正答率	数学 正答率	理科 IRT スコア
当てはまる	71.6	65.4	62.2	58.9	48.2	526
どちらかといえば、 当てはまる	65.7	56.9	55.5	52.9	42.8	484
どちらかといえば、 当てはまらない	61.3	50.4	50.8	46.4	30.2	455
当てはまらない	58.8	50.0	48.4	30.8	14.6	377

質問事項	小学校 6 年生			中学校 3 年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
どちらかといえば、当てはまらない・当てはまらないの割合 5年生までに（1、2年生の時に）受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていたか	16.8	14.3	16.5	21.7	17.7	19.6

③児童生徒の1日当たりの学習時間と平均正答率の関係(平日)

【普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか】

選択肢	小学校6年生			中学校3年生		
	国語 正答率	算数 正答率	理科 正答率	国語 正答率	数学 正答率	理科 IRT スコア
3時間以上	61.9	51.9	54.2	51.1	42.1	506
2時間以上、3時間より少ない	66.3	56.6	54.0	55.7	43.3	512
1時間以上、2時間より少ない	72.5	65.4	62.3	55.2	42.8	496
30分以上、1時間より少ない	68.6	60.0	57.3	50.1	39.0	470
30分より少ない	62.0	55.0	52.7	49.0	38.0	468
全くしない	50.9	43.3	49.1	42.1	30.4	409

質問事項 30分以上、1時間より少ない・30分より少ない・全くしないの割合	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をするか	52.3	41.8	46.0	42.9	25.9	38.1

(2) 分析結果

- ・「朝食を毎日食べる」等、基本的生活習慣が確立している児童生徒は、平均正答率が高い傾向が見られる。
- ・「前学年までに受けた授業は、自分に合った教え方、教材、学習時間などになっていた」と回答する児童生徒ほど平均正答率が高いことから、個別最適な学びが行うことは、児童生徒の「わかった」「できた」を経て学力向上に結びついているといえる。
- ・平日1日当たりの学習時間と平均正答率の関係をみると、小学校6年生では、「1時間以上2時間より少ない」、中学校3年生では、「2時間以上3時間より少ない」の項目で1番正答率が高い結果となった。

(3) 改善の方策

- ◇授業では、個別最適な学びを実現するため、個に応じた手立ての選択肢を増やしたり、習熟の程度に応じた指導や少人数指導などの策を講じたりして、組織的・計画的に実施する。時間を効果的に使い、補充学習を行う。
- ◇授業や家庭学習の見取りを細かにを行い、やり直しなどを徹底する。
- ◇学校便り、ホームページ等を通して、規則正しい生活と学力の相関関係を示し、基本的生活習慣の確立に向け家庭への協力を求める。
- ◇学力向上会議や学校運営協議会、学級懇談会で議題に取り上げ、学習時間の確保に向けて、メディア時間を含む生活時間の見直し、学習意欲向上のきっかけづくりなど、具体的な対策を学校だけでなく、家庭・地域と共に考える。

6 学校質問調査結果について

(1) 学校質問調査結果の概要(数値は肯定的回答「よく行った・どちらかと言えば」の割合 %)

※水色：全国値より5ポイント以上

※黄色斜体：全国値より5ポイント以下

【生徒指導等】

質問事項	小学校			中学校		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
調査対象の児童生徒は授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	94.4	88.9	85.9	83.4	88.1	92.0

【家庭学習】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法を具体例を挙げながら教えましたか	94.5	97.9	96.6	100.0	98.3	92.8
前年度までに、家庭学習について、児童(生徒)が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	72.2	86.9	90.6	91.7	89.9	85.9
前年度までに、学校では、児童(生徒)が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童(生徒)の学習改善に生かしましたか	88.9	94.3	90.4	100.0	94.9	84.0

【家庭や地域との連携について】

質問事項	小学校6年生			中学校3年生		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	94.5	97.5	93.3	100.0	95.0	89.0

【授業改善・学習指導】※「主体的・対話的で深い学び」「新大分スタンダード」に関連

質問事項	小学校			中学校		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国
課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか	94.4	91.8	89.3	91.7	91.5	88.2
習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	88.9	89.3	88.6	83.3	83.9	86.8
言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	100.0	98.0	96.3	100.0	97.4	94.7
学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができますか	94.4	91.8	89.2	91.7	94.1	90.8
授業において、児童(生徒)自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	83.3	87.3	89.9	83.3	83.9	86.1

【授業改善・学習指導】 《小6国語》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	児童が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して児童のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか	28.9	30.6	28.1	44.4	41.0	34.9				
前年度までに、国語の授業で、児童に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか	30.9	32.4	29.8	38.9	39.3	31.2				
国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか	37.9	36.3	34.7	33.3	39.3	34.9	2三 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	67.7	66.3	61.3
国語の授業において、前年度までに、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができる指導を行いましたか	31.8	32.1	29.8	27.8	36.9	33.6	3三（１） 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	39.1	39.8	40.8
							3三（２） 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	62.5	62.8	56.3

【授業改善・学習指導】 《中3国語》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	生徒が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
前年度までに、国語の授業で、学習状況に即して生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか	21.6	29.5	24.9	58.3	55.1	40.2				
前年度までに、国語の授業で、生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じることを行いましたか	19.8	28.9	23.9	50.0	47.5	36.8				
国語の授業において、前年度までに、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることができるような指導を行いましたか	20.9	29.3	26.9	75.0	55.1	46.7	1三 書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる	61.0	62.1	63.3
							1四 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる	34.4	32.7	31.0
国語の授業において、前年度までに、読み手の立場に立って、表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるような指導を行いましたか	25.7	31.6	29.0	66.7	44.1	37.2	4一 読み手の立場に立って、表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	50.6	59.6	57.3
							4二 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる	22.7	26.8	30.1

【授業改善・学習指導】 《小6 算数》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	児童が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
算数の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	48.9	49.2	49.0	5.6	33.6	28.4				
前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか				38.9	43.9	38.2				
算数の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた児童に対する対応を行っていましたか				55.6	51.2	45.7				
前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	33.2	30.6	29.3	55.6	51.2	45.7	1（2） 目的に応じて適切なグラフを選択して出荷量の増減を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	29.5	32.8	31.0
							2（4） 基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	40.0	39.8	37.0
							3（2） 分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	26.5	23.6	23.0
							4（2） 伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	46.9	49.2	48.7

【授業改善・学習指導】 《中3数学》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	生徒が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
数学の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	22.9	24.9	21.7	66.7	35.6	25.6				
数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか				41.7	35.6	24.8				
数学の授業において、前年度までに、授業で、学習上つまづいた生徒に対する対応を行っていましたか				66.7	56.8	43.8				
数学の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか	21.4	25.3	21.1	58.3	51.7	46.3	6（2）式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	18.7	22.2	25.7
							6（3）目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	34.4	44.5	45.2
							7（2）不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	51.0	51.1	55.9
							8（2）事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	32.9	33.7	38.0

【授業改善・学習指導】 《小6理科》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	児童が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	31.8	30.6	31.7	27.8	37.7	34.0	3（４）レタスの種子の発芽の条件について、差異点や共通点を基に、新たな問題を見だし、表現することができるかどうかをみる	32.6	34.4	29.9
理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	25.6	28.7	28.1	27.8	36.1	36.3				
理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか	46.6	46.1	49.5	55.6	46.7	43.9	1（３）赤玉土の粒の大きさによる水のしみ込み方の違いについて、【結果】や【問題に対するまとめ】を基に、他の条件での結果を予想して、表現することができるかどうかをみる	78.4	78.9	77.8
							4（３）カ 水が氷に変わる温度を根拠に、オホーツク海の氷の面積が減少した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	51.7	58.0	59.8
							4（３）ク 「水は温まると体積が増える」を根拠に、海面水位の上昇した理由を予想し、表現することができるかどうかをみる	64.0	66.3	65.6
理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を整理し考察する指導を行いましたか	60.5	56.5	59.6	66.7	52.5	50.0				
	54.0	49.1	50.0							
理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか	34.8	34.1	33.4	61.1	38.9	31.9	4（１）水の温まり方について、問題に対するまとめを導きだす際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し、表現することができるかどうかをみる	46.9	51.4	50.6

【授業改善・学習指導】 《中３理科》

「よく行った」回答の数値

質問事項（学校質問より）	生徒が回答した数値			学校が回答した数値			調査問題	正答率（％）		
	日田市	大分県	全国	日田市	大分県	全国		日田市	大分県	全国
理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか	16.3	19.7	18.0	75.0	42.4	36.6				
理科の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか	14.6	19.1	15.9	58.3	50.0	45.7				
	11.5	16.5	13.6							
理科の授業において、前年度までに、問題に対して、既習の内容や生活経験を基に、予想や仮説を発想することができるような指導を行いましたか	19.2	24.7	26.3	58.3	40.7	37.0				
理科の授業において、前年度までに、観察や実験の結果を分析し解釈する指導を行いましたか	30.9	36.3	40.3	58.3	58.5	51.0				
理科の授業において、前年度までに、課題解決の過程における自分や友だちの学びの深まりや疑問に思ったことを振り返ることができるような指導を行いましたか	18.9	23.7	22.9	41.7	39.8	31.8	1（６）科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる	74.8	74.5	79.4

(2) 分析結果

【小学校】

- ・「授業改善・学習指導」に関連する質問事項の多くで、全国値と同程度以上となっており、各学校において組織的な授業改善が行われていると考えられる。特に、「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか」については全国値を大きく上回っている。
- ・「前年度までに、家庭学習について、児童が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行ったか」については、全国値を大きく下回ったものの、昨年度より11ポイント上昇している。
- ・「生徒指導に関すること」の調査から、全国値を8ポイント上回り、児童は落ち着いて授業を受けていることがわかる。
- ・「授業改善・学習指導」では、学校質問事項と児童質問事項の数値に乖離がある問題が数問あることが分かる。

【中学校】

- ・「学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができているか」については、全国値より1ポイント上回り、昨年度の課題（全国値より5ポイント下回る）が改善されている。
- ・「生徒指導に関すること」の調査から、全国値を8ポイント下回り、昨年度と比較しても開きが大きくなっており、学習環境が整っていない状況がうかがえる。
- ・「授業改善・学習指導」では、学校質問事項と生徒質問事項の数値に乖離があることが分かる。加えて、関連のある調査問題の正答率とも隔たりがあることが分かる。授業者と生徒の授業に対する捉え方に違いがみられる。

【小・中共通】

- 「家庭や地域との連携」に関連する項目については高い水準を維持しており、学力向上会議や学校運営協議会等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まっている。

(3) 改善の方策

- ◇学力調査問題を、「児童生徒が苦手としている内容を授業で意識して実践してほしい」という文科省からのメッセージ、「理解できていないところがある」という児童生徒からのメッセージであるにとらえ、調査問題や課題を意識した日々の授業実践を行う。
- ◇学校質問調査と児童生徒質問調査の乖離がみられる指導に対しては、単元計画やめあてを児童生徒と共有し、ゴールや目的を明確に持たせた授業を行う。
- ◇近年増加傾向にある経験年数の浅い教員の育成のためにも全校または学年部において学級経営や学習規律等の共通理解を図り、児童生徒の学びに向かう環境を整える
- ◇日田市アクションプランの取組指標にもあるように、昨年度同様、管理職・教務主任等による授業参観及び計画的な互見授業の取組等により、組織的な授業改善を推進していく。
- ◇指導教諭等による授業公開や近隣の学校に学ぶなど、積極的に学ぶ機会に参加し、自己研鑽を図る。

7 今後の取組について

学力調査は、教員や児童生徒に対して学力の土台となる基盤的な事項を具体的に示すものであり、教員の指導改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上に役立てる目的として実施している。

つまり、実施した結果数値よりも、原因分析と改善方策が大切であり、何が足りないのか、児童生徒の学力のために授業、それ以外において何が必要なのかを考え、実践する必要がある。

今回の結果から、子供達からのメッセージをしっかりと受け止め、組織として改善のために取り組まなければならない。

①【授業改善】

全ての児童生徒が「わかった」「できた」と感じる授業づくり

（仮説）

低学力層（小学校は評定1、中学校は評定1・2）の児童生徒が学びに向かうような授業を実施すれば、愛好度や理解度が維持・上昇し、12月調査において偏差値が上昇するのではないだろうか。

- （1）子供の実態を総合的な数値だけでなく、個人を見つめなおすために、評定別の一覧表を作成し、校内で共有する。
- （2）個別最適な学びと協働的な学びを適切に使い、全ての児童生徒が学びに向かう授業を実践する。※可能な限り、少人数、習熟度など授業形態を工夫する。
- （3）授業を自分ごとにするために、めあてを作り、振り返りをする。
- （4）定着状況を把握するために、見取りを確実に行う。
- （5）12月調査において、低学力層の児童生徒の変容を把握し、取組の成果や課題を分析する。また、2学期末の学校独自アンケートで、教科の学習が「好き」「わかる」の変容を把握する。

②【帯学習】【補充学習】【家庭学習】

帯学習で、継続して基礎基本の力を培う。

補充学習と家庭学習で、確実に学習を定着させる。

（仮説）

意図的な【帯学習】【補充学習】【家庭学習】を継続して実施し、児童生徒が「できた」と感じる機会を確保すれば、理解度と愛好度が上昇するとともに、基礎基本となる知識技能が定着するのではないだろうか。

- （1）組織的・継続的にAIドリルに取り組み、知識技能を定着させる。
- （2）授業時間内の帯学習、時程内の帯学習を計画的に実施し、継続することで力をつける。
（例）帯でAIドリルを行い、補充が必要な子供には直接指導を行う。
- （3）各学習において、教科の課題を分析し、何のために何をするのか、目的を持たせて実施する。
※条件作文、単語テスト、音読など、積み重ねれば目に見えて力がつく。
- （4）自分の学びを向上させたり、振り返ったりすることのできる家庭学習を、習慣となるように継続する。

③家庭との連携

（仮説）

学校が、児童生徒の学力や学習状況と改善策を知らせ、家庭と共に学習指導や学習状況の改善に取り組めば、家庭では、自ずと勉強の話をする時間が増え、児童生徒の学習の時間が長くなるのではないだろうか。

- （１）学力低下の一要因として考えられる「家庭での学習習慣に関する質問」や「家庭でのメディア使用時間に関する質問」の数値を機会がある度に家庭へ発信し、課題に対する協力を依頼する。
- （２）懇談会などで家庭学習についての話題を取り上げ、「家庭で、勉強についての話をする時間を作る」など、学校と保護者と共に取組について考える時間を作る。
- （３）ＨＰへの公開、学校だよりなどを活用し、地域へ現状を知らせる。
- （４）学力向上会議や学校運営協議会での議題に取り上げ、メディアルールを作ったり、家庭学習時間チェックをしたりするなど具体的な対策を講じる。
- （５）アンケート、実態調査などから変容をとらえ、学力の変容と共に報告する機会を作る。

④その他

●各学校による調査結果の分析と具体的な対策の作成及び取組

- ・各学校は８月２０日までに調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしたうえで、授業改善等の具体的な対策を講じ、２学期から取組を始める。

●研究主任会の開催（オンライン）

- ・日田市が目指す組織的な授業改善及び学力調査結果をもとにした授業改善に関する説明を開催する。
- ・２学期の３つの仮説検証の取組の進捗状況を交流する。

●日田市の指導教諭等に学ぶ取組

- ・日田市の指導教諭の互見授業に合わせ、授業公開を設定することで、授業実践に実践の内容説明、参観者からの質問時間を加え、身近な所から学ぶ機会を作る。
- ・各学校における効果的な校内研修や、日田市の夏休みセンター研修を録画し、オンデマンドで研修ができる機会を作る。

●他市町村に学ぶ取組

- ・参考となる他市の視察に行き、好事例を取り入れる。
各学校において、または、教科部会等を通じて共有を行う。

●教科部会で授業改善研修の実施

- ・全教科担当者が参加する場において、大学教授や県の指導主事を招き、授業研究会の中で指導助言をいただく。
- ・課題のある英語に関しては、ALTの活用研修や実践や情報の共有のための研修の機会を作り、指導主事が積極的に働きかける。